



---

## 「フランスの女性史と『第二の性』の検討を通じた ジェンダー・アプローチ」

---

法文学部 教授 金山 富美

「平等」の世、小・中・高と人権教育を受けてきたはずの学生だが、現実のジェンダー差別には紋切型の反応に留まり、自ら問題に直面すると戸惑う姿が見られる。

金山研究室では、フランス思想に基づき男女平等の理念がどのように進展して今日に至ったのかの研究を軸に、男性中心の社会に切り込んだ女性、つまりボーヴォワールの言葉を借りれば「他者化された性としての女」の枠を超えて社会に影響を及ぼした女性たちを、各時代の政治・経済・社会的背景（また男性により創られた「思想」や「学問・研究」）を踏まえて紹介し、学生にジェンダー問題を主体的に考えるように促す授業実践に力を入れている。様々な学問分野に広がるジェンダー研究だが、その最も基礎的な考え方を、日仏文化比較や昨今の日本の諸問題も交えながら学習することによって、学生たちに、ジェンダーを知識としてだけでなくより身近に引き寄せ、自らの生き方の問題として把握できるようになってほしいと願っている。